

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

本邦における腎代替療法選択における共同意思決定の影響に関する実態調査

2. 研究責任者(当院)

所属：腎臓内科

氏名：藤井隆之

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：群馬大学大学院医学研究科 医療の質・安全学

代表名：小松 康宏 教授

3. 分担研究者

所属：腎臓内科

氏名：鈴木 理志、田中宏明、寺崎紀子

4. 研究対象者

2021年09月01日～2022年09月1日の間に、聖隷佐倉市民病院において腎代替療法を開始し、開始後1年以内でかつ腎臓内科に3カ月以上通院された20歳以上の方。

5. 研究の必要性

末期腎不全の腎代替療法の選択は、患者さんの生活の質、日常生活、人生に大きく影響するものであり、その選択には患者と医療者が医学的情報と患者の価値観や選考を共有し、協同で最良の意思決定に至る共同意思決定（Shared Decision Making、以下SDM）のプロセスに沿って進めることが広く推奨されています。末期腎不全においては、血液透析、腹膜透析、腎移植、（保存的腎臓療法）がありますが、我が国の腎代替療法の選択は、通院血液透析に偏重し、腹膜透析、腎移植の普及率は他国に比べて著しく低くなっています。その一因として、治療選択に関する十分な情報提供は不足していることが想定され、2018年度の診療報酬改定では、腎代替療法選択時にSDMに基づく説明がなされた場合、医療機関に対する支払いにあたって、特別に加算される制度が開始されました。しかしながら、本邦において未だ腹膜透析や腎移植の普及率が低いことを考えると、実際にはSDMが十分に行われていない可能性があります。そこで、患者ならびに医師のSDMの実践程度や、患者の医療への参加度を明らかにすることは、我が国の末期腎不全医療の質改善につながることを期待されます。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は無記名アンケートであり、参加個人への影響はありませんが、現在の腎代替療法選択時のSDMの実態を調査し、患者と医師におけるSDM実践の認識の差異、SDMの実践程度と腎代替療法選択との関連を明らかにすることで、今後の透析療法に関する説明や話し合いの仕方を改善し、ひいては透析医療を向上させることに役立つことが想定されます。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：藤井隆之、田中宏明、寺崎紀子

対応時間：9：00～17：00

共同研究において専用窓口がある場合

群馬大学大学院医学研究科 医療の質・安全学講座
教授 小松康宏